川名先生追悼号に寄せて

学　長　　笹　金　光　徳

本稿のまず始めに、改めて川名和美教授の御逝去に対し心から御冥福をお祈りいたしますとともに、御家族の皆様には深く追悼の意を表します。

川名先生が広島修道大学から高千穂大学に赴任し、教育・研究にご尽力された８年余りの間、同じ経営学部に所属する教員としていろいろなことを語り合いました。

産官学連携や地域連携に対し熱い情熱を持っておられ、しかも（私と違って）口先だけでなく、着実に行動で示していた点を心から尊敬します。まさに能力と気力と人間力を兼ね備えた人でした。それでいて決してしゃしゃり出る感じではなく、かといって引っ込み思案でなくバランスの良い方でした。それは、彼女の「ま、心配しないで…なんとかなるから」と言っているかのような笑顔に象徴されていました。

私が学長になった３年前には、そんな彼女が確実に持っている潜在力をもっと生かして頂きたくて、学長室委員をお願いし、快諾頂きました。さらにその１年後は、手術をされたあとであることを内々に伺っておりましたが、理事長と相談の上、「ご負担でなければ副学長をお引き受けいただけないか」と打診し、「ご家族から同意が得られたので引き受けます」という返事をいただきました。

そして秋になり、お体の異変についての第一報を伺う直前には、田中良杉並区長を本学に招き、起業・事業承継コースの学生と区長が対談するイベントを実施していただきました。その時の学生の輝いている姿と普段と違うリラックスした区長の表情を良く記憶しています。このように各自が持っている良さを引き出すことがとても上手な先生でした。それは、起業・事業承継コースの各種行事や総合科目等で外部講師をお呼びした時にもいつでも感じることでした。

もう一点とても印象的に記憶に残っていることは、彼女が、「起業家教育」は起業を目指す起業・事業承継コースの学生だけでなく、すべての学生に学んでほしいことだ、という強い信念あるいは確信を抱いていたということです。また、今年の入学式直後には当たり前のように本学の特色を表す行事として行われた「学部教員と新入生の父母の懇親会」の原形を企画・実践したのも川名先生です。バイクに乗って硬式野球部の入替戦の応援に行き、FB で経過報告してくれたこともありました。他にも思い出は多々あります…

50 歳という若さでこの世を去らねばならなかったことは、残された私達以上にご本人にとって無念だったろうと想像いたします。そんな彼女の想いを忘れることなく、遺志を着実に受け継いで私たちの教育の場を発展させることで、感謝の気持ちをお伝えしたいと思う次第です。

平成 30 年 4 月 23 日